



上／中野さんの趣味は紙細工。チラシを使ったオブジェも作ります
右／チャーミングなポーズをとってくれた中野さん



共通点がありました。市川博幸さんと絹子さん、そして尾崎和也さんと佐千子さんたち夫婦は、いずれも夫の出身地が県外と町外というもの。
長野県出身の市川さんは「こちらでの暮らしが長くて、古里の言葉を忘れてしまいうです」と笑います。尾崎さんも「小川町出身ですが、すっかり益城人です」とニッコリ。そんな2人の妻たちは「生まれ育った田原で暮らせて幸せ」と口をそろえます。漫画「サザエさん」のマスオさんのような、包容力と理解力のあるパートナーに恵まれた田原のサザエさんたち「は幸せ者ですね」。



「一日中やることがいっぱい」と充実した日々を送る坂田さん



坂田さんが育てたオリーブで作られたオイル。町のふるさと納税返礼品にも選ばれています



過日、田原地蔵堂では地区の人たちが集まって地蔵祭りが開かれました。「毎年、料理をお供えし、お経を唱えてもらいます」と話すのは区長の奥村裕義さん。供膳の献立は昔から決まっており、雑炊と炊き込みご飯を合わせた「ずし」と呼ばれるもの

親子で牛削蹄師

田原第2団地に暮らす中野フキ子さんに出会いました。御年91歳と聞いてびっくり。元気の秘訣はよく動くことだとか。「毎日、朝から掃除と洗濯ば済ませたら、外に出て野菜の世話ばするでしょ。それから牛乳パックやチラシを使って小物作りをするのが楽しみ。一日があつという間ですたい」とほがらかに笑います。



田原地区の高台にある「田原地蔵堂」



地蔵祭りに供える「ずし」を大鍋で作る地区の皆さん(提供写真)

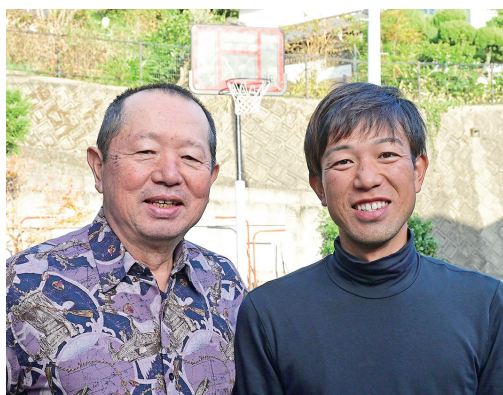


地蔵堂に供えられた「ずし」。懐かしい味がします



牛のひづめを整える時に使う、独特の形をした道具

と、おから、紅白なますの精進料理です。奥村さんは「こうした風習や伝統を、若い人たちに継承していきたい」と話します。
そんな奥村さん、聞けば長年、牛削蹄師をなりわいとしていたとのこと。「牛のひづめを切り整える仕事です。ひづめを整えることで、歩行や姿勢を正常で快適に保ちます。ミルクの出や肉質にも関係してくるんですよ」と話す奥村さんには、すでに立派な後継者がいます。三男の竜太さんは「削蹄師になって23年ほどです。小さい頃から小遣い稼ぎに父の仕事を手伝っていました。牛の健康を預かるこの仕事にやりがいを感じています」と照れくさそうに笑いながら、作業を終えた道具の手入れ



奥村さん親子。左から裕義さんと竜太さん

に余念がありません。
また竜太さんは、益城町を拠点とするジュニアサッカーチーム「FC BIG WAVE」でコーチを務めています。竜太さんの小5の長男もメンバーの一人で「親子でサッカー漬けです」とうれしそうに笑います。

手塩にかけたオリーブ畑

県道熊本高森線から津森神宮へと入る二股道を左に折れ、さらに進んだその先に広がる田原集落。今から60年以上も前、民家が点在しているこの集落には、地元特産品のサツマイモを原料にしたでんぷん工場がいくつもあり、人の流れも盛んで映画館やパチンコ店などが建ち並び、にぎわいをみせていたそうです。
そんな話を聞かせてくれたのは坂田知則さんです。長く建設業を営んできた坂田さんは勇退後の楽しみの一つとして、数年前からオリーブを栽培しています。「一年毎に収穫量も増えました。オリジナルのオイル

田原のマスオさんとサザエさん

毎週水曜日の午前中、公民館は元気体操に集まる人たちにぎわいます。その中の2組の夫婦には、ある

も製造しています」と、坂田さんが手塩にかけたオリーブで作った「つもりオリーブ」は、ふるさと納税の返礼品にも選ばれています。

坂田さんがボランティアで管理している自宅裏手の「津森みんなの広場」に案内してくれました。「地元の有志たちの協力により無料で開放している施設で、子どもたちがサッカーをしたり、ゴルフ練習場として利用されています」と教えてくれました。



坂田さんの自宅の裏にある「津森みんなの広場」



元気体操に集まった田原地区の皆さん。おしゃべりにも花が咲きます



「田原のマスオさんとサザエさん」たち。左から尾崎さん夫婦、そして市川さん夫婦